

2012年12月11日

医薬経済・イノベーション評価研究会（略称：キヤノン HTA 研究会）
2012年11月21日（水）開催 第7回研究会記録

1. 中央社会保険医療協議会（中医協）・費用対効果評価専門部会

- 10月31日に開催された第5回中医協・費用対効果評価専門部会の状況についてディスカッションを行った。特に、EQ-5Dの科学的基礎について論議した。
 - 参考情報：第5回中医協・費用対効果評価専門部会の状況
 - ◇ EQ-5Dを用いたQOL評価について参考人より報告。EQ-5Dの換算表が地域（日本と英国）により異なる点、疾患特異性についてどのように考えるのか、EQ-5Dが患者主観的評価であることから正確に評価できるのか等の質疑が委員からなされ、日本版の評価基準を今後検討するという方向になった。
 - EQ-5D換算表のバリデーションについて
 - ◇ 日本語化にあたりバリデートされていると思われるが、英国と日本で価値観の相違があればゆらぎが生じている可能性は否定できない。
 - 効用の評価法（スタンダード・ギャンブル法 or EQ-5D）
 - ◇ スタンダード・ギャンブル法を用いた効用値の算出は、手間がかかるため困難→アンケート法（EQ-5D）が汎用されている。

2. ISPOR 15th Annual European Congress (Nov. 5th, 2012 at Berlin)

- CIGS 鎌江伊三夫氏より、ISPOR ベルリン Issue Panels の状況について紹介。
 - 本 Issue Panels は、European network for Health Technology Assessment（EUnetHTA；デンマークの Dr. Kristensen が企画した情報交換の場であり、個人単位ではなく、NICE 等の Agency が Agency 単位で参加を決めるという性質のもの。学会のイメージがあるが Dr. Kristensen 個人の貢献が大きく、代表的な HTA ネットワークに成長している。今後、更に前進できるのか、それとも渋滞を起こしているのか討議された。
 - ①Value based pricing、②Differentiating price、③EU としての将来の HTA 統合の3つを大きなテーマとして議論された。
 - フランスは Incremental（＝増加）Clinical Benefit をプライシングに繋げる新方針。また、費用対効果を評価するために QALY を必ずしも用いない。
 - ドイツは IQWiG の役割が低下し、Incremental（＝増加）Clinical Benefit

を評価することにより交渉による保険償還価格決定と参照価格制の並立。

QALY を必ずしも用いない点でフランスに共通する。

➤ 以上のように、NICE vs HAS & IQWiG の構図が鮮明となった。

3. その他

- CIGS 鎌江伊三夫氏による HTA 総説（効率的フロンティアによるイノベーション評価）が雑誌 医薬品医療機器レギュラトリーサイエンス No. 11 に掲載された。来週以降、CIGS HP にも掲載予定。⇒掲載済み（12/11 現在）
- 次回は 12 月 19 日（水）17:30~19:30、CIGS サウ氏によるタイにおける HTA 事情の講演他。

（記録：研究会メンバー 金子）